戦後70周年記念シンポジウム「戦争と中央大学」開催報告

10月21日（水）に多摩キャンパスにおいて、戦後70年記念シンポジウム「戦争と中央大学」を開催しました。

本年2015年は、戦後70年目であるとともに中央大学にとっては創立130年を迎える年でもあります。1943年に明治神宮外苑競技場において「出陣学徒壮行会」がおこなわれた10月21日にこのシンポジウムを開催した理由は、戦争の時代と中央大学を見つめ直し、その成果を後世に繋げるためです。総長・学長の酒井正三郎による挨拶では、以下のような言葉がありました。

「現在、中央大学のキャンパスで、それぞれの希望を胸に日々学んでいる学生の皆さんも、もしもあの時代に生きていれば、このような運命に立ち向かわざるを得ませんでした。そのことを考えると、いま当たり前のように暮らし、学び、自由な意志で将来を思い描けることの意味の大きさをもう一度あらためて考えざるを得ません。本日のシンポジウムが、すべての人々にとって平和に暮らせることの尊さを考える機会となりますよう、またこれからの未来を担う若者にとって、学ぶ意味と有り難みについて考える機会となりますよう、心から祈念いたします」。当日は約400名収容の会場がほぼ満員となり、本学学生に加えてほぼ半数を一般のご来場者が占め、このテーマへの関心の高さが伺えました。

【シンポジウム次第】

1．開会の言葉：法学部教授 中島 康予（法学部長）
2．挨拶：総長・学長 酒井 正三郎
3．挨拶：法学部教授 廣岡 守穂
※このシンポジウムは、法学部教授廣岡 守穂の担当科目「政治思想史Ａ２」を公開しておこないました。
4．パネルディスカッション
コーディネーター：文学部教授 松尾 正人
1）「アジア太平洋戦争と大学」
経済学部教授 土田 哲夫
2）資料紹介：大学史資料課
3）「戦時体制下における理工科学校
～中央大学理工学部へ」
法学部准教授 岡田 大士
4）映像資料紹介「元特攻志願兵の証言
～中央大学と戦争」
総合政策学部教授
松野 良一（総合政策学部長）
5）まとめ・質疑応答

「No Car, No Life！ 今、私が伝えたいこと」
マツダ株式会社の小飼社長による講演会を開催【(社)日本自動車工業会共催】

音響室を体験される小飼社長

10月6日（火）に、(社)日本自動車工業会共催による講演会が、後楽園キャンパスにて開催されました。この講演会は、「大学キャンパス出張授業　～経営トップが語るクルマの魅力～」と題し、近年若者のクルマ離れが指摘されるなか、自動車メーカートップ自らが各地の大学へ出向き、若者の生の声に耳を傾けながら、クルマやものづくりの魅力を楽しく語り新しい発見を提供することを目的に、(社)日本自動車工業会と全国の12の大学とが連携し、実施されました。

本学では、マツダ株式会社代表取締役社長兼CEOの小飼 雅道氏から、「No Car, No Life！ 今、私が伝えたいこと」というテーマで学生時代の体験や、マツダに入社した経緯、これまでの会社人生のなかで培ってきた仕事に対する考え方など、これから社会人となる学生に伝えたいことや教訓などについて講演を行いました。

当日は、開場とともに約500人収容の5号館教室があっという間に満席となり、別教室に映像を中継して実施しましたが、こちらも教室定員を超過する大盛況ぶりで、総勢約930人の参加者が真剣な眼差しで小飼社長の講演に耳を傾けました。終了後、同社長は同時中継会場の聴講者にもご挨拶され、ここでも大きな拍手を受けました。また当日は、キャンパス内に車両（ロードスター、CX－3、デミオ、CX－5の4台）を搬入し車両展示を行い、マツダが目指す人間中心のクルマ作りである「人馬一体」を体験できるドライビングポジション実践を行いました。講演会終了後には、マツダ技術者によるプレゼンテーションならびに本学出身のマツダ社員との懇談も行われました。こちらも定員約120名の教室が満員となり、多くの学生が、マツダの技術について、また就職活動についてなど、積極的にマツダ社員に質問を行い、大盛況となりました。

講演会開始前に小飼社長は、中央大学精密機械工学研究部ならびに理工学部精密機械工学科音響システム研究室（戸井武司教授）を訪問し、自作のエコランカーやロボットならびに自動車２台が入った半無響室など音響関連の研究設備を見学され、交流を深めました。